事業分類	1. 教室・講習

【事例２】世代間交流ドライビングスクールなど（富山県滑川市）

他地域の取組事例を参考にしたり、市職員の独創的なアイデアのもと、「世代間交流ドライビングスクール」や「交通安全クッキング教室」といった特徴的な交通安全活動を展開

1. 取組内容

（1）取組の背景と目的

・ 平成 25 年における富山県内の交通事故死者数は 53 人だったが、そのうちの高齢者は全体の約６割（32 人）と高い割合を占めている。また、警察による分析結果によると、高齢者の交通事故の特徴としては、夜間･早朝時や道路横断中の事故が多い、自宅付近（ゴミ出しの際等）での事故が多いといった点が挙げられている。
・ 滑川市としても、このような交通事故の特徴や高齢化による身体機能の低下などを高齢者に伝えるとともに、反射材の重要性を PR することが事故防止につながると考え、交通安全教室など、交通安全意識の普及啓発を目的とした様々な行事を開催し、その前後には市民に対して積極的に広報・PR している。
・ こうした状況のなか、インパクトのある新たな事業を模索。他地域の取組事例を参考にしたり、市職員の独創的なアイデアのもと、「世代間交流ドライビングスクール」や「交通安全クッキング教室」のような特徴的な交通安全事業を企画立案・実施した。

（2）実施内容

■世代間交流ドライビングスクール

（取組経緯）

・ 参考になる交通安全事業はないかと、インターネットでいろいろと検索した結果、他市において、若者と高齢者が一緒になって参加するドライビングスクール（世代間交流交通安全マナーアップ講習会）が開催されていることを知った。
・ これまで滑川市では、対象世代ごとに交通安全教室を実施していたが、この事例のように講習を通じて世代間交流を図りたいと考え、全国交通安全運動期間中に実施する一事業として本事業を企画した。
・ なお、若者の参加募集に際してあたっては、日常的に高齢者との接点が多いのではないかという理由から、市内の医療福祉系専門学校に打診したところ、協力を得られることになった。

（事業目的）

・ 若い世代と高齢世代の間での交通意識や運転技量の違いなどを、世代間を超えて双方が理解し合い、交通安全の意識の向上やマナーアップにつなげることが目的である。
・ 自動車運転に関して「若者（もしくは高齢者）にはこういう特徴がある」といったことを把握していれば、お互いが気をつけて車を運転するようになり、交通安全運動のスローガンにも謳われている「ゆずりあう　心でひろがる　無事故の輪」の実現につながるのではないかと考えた。

●対高齢者：加齢による身体機能の低下、注意力の減退を講習で身をもって確認し、今後の安全運転の参考にする。
●対若者：自分の運転技能の悪い点をもう一度見直し、修正する。

（取組内容）

・ 講習は市内の自動車教習所で実施。教習車には若者と高齢者がペアを組んで同乗し、教官が助手席に同乗し指導する。
・ 若者と高齢者が交互で運転を行い、高齢者は若者の運転様子を、若者は高齢者の運転様子を見ることで、若者・高齢者のそれぞれ目線で感じたことや新たに発見したことについて意見交換する。

＜具体的な講習内容＞

●運転技能体験
●危険予測運転：事故に遭いやすいシチュエーション（自動車が急発進する、ボールが飛んでくる、自動車のドアが急に開く等）において実際に運転してもらう（なお、ケース設定に関しては、講習での再現可能性等も加味しながら自動車学校が選定している）
●シミュレーター体験
●運転適性検査
●シートベルトコンビンサー体験（シートベルトの衝撃体験を実施し、シートベルト着用の重要性を認識してもらう）

■交通安全クッキング教室

（事業目的）

・ 交通死亡事故ゼロを目指す日（全国指定日）に、交通死亡事故ゼロにちなんだ料理を調理し、楽しく交通安全について触れ合う行事である。
・ メニューは以下のとおり。「無死亡」ならぬ「無脂肪」牛乳を使ったヨーグルトプリンや、シートベルトを「締める」に語呂合わせした昆布締めのカルパッチョなど、ダジャレを取り入れつつ健康にも配慮したレシピを考案した。

＜メニュー例＞

●ゆで豚のピリ辛：豚肉をゆでて脂肪（死亡）を減らし、平和な生活
●昆布〆のカルパッチョ：昆布で〆るようにシートベルトもしっかり締めよう
●牛乳おから：無脂肪（低脂肪）牛乳でヘルシーに ～ 無死亡 ～
●滑川産梨の豆乳ヨーグルトプリン：事故無し&NO 死亡（無脂肪ヨーグルト）で明るい滑川市
●すまし汁：交通安全で「細く長く」元気で長生き
●ゼロの形をした梨（無し）入りコロッケ：交通事故ゼロコロッケ
●大豆パン：命が大事
●シグナルサラダ：信号機の三色をかたどったサラダ
●鶏出汁：飛び出し禁止スープ
●メガシャキゼリー：目が覚めるゼリー

（小学生への普及啓発）

・ 平成 24～25 年度に実施した当該事業は非常に好評だった。内部で検討した結果、「高齢者のみを対象にするのはもったいない」、「地元の子供達も巻き込めば、交通事故防止につながるのではないか」といった指摘を受け、平成 26 年度には、低年齢層への普及啓発を図るべく、交通安全給食としてリメイクした。交通安全クッキング教室で考案し

たメニューを小学校の給食に出して、市内の子供たち全員に食べてもらい、交通安全の意識を広めていくことが狙いである。
・ 具体的なメニューについては、市の学校給食共同調理場に相談し、カロリーバランス等を考慮したうえで提案してもらった。

（３）連携先機関

・ イベント実施にあたっては、警察、自動車学校、地元の老人クラブ・専門学校など、様々な関係者の協力を得ている。

■世代間交流ドライビングスクール

連携先機関名	役割分担
警察	・市と共同でドライビングスクールの企画立案、実施
滑川自動車学校	・開催場所や指導教員の提供（ボランティア）
老人クラブ連合会	・参加者（高齢者）の募集
医療福祉系専門学校	・参加者（若者）の募集

■交通安全クッキング教室

連携先機関名	役割分担
市民健康センター	・クッキング教室の開催場所の提供及び料理の指導、料理メニューの考案
交通安全母の会ほか	・参加者の募集
学校給食共同調理場	・料理メニューの考案（交通安全給食としての企画において全面協力）

（４）事業体制

当該事業予算	世代間交流ドライビングスクール：市の負担なし 交通安全クッキング教室：20 千円（クッキング教室の食材費）
本事業担当職員数	２人

２．取組の成果・効果

（１）実績

■世代間交流ドライビングスクール

・ 開催日：平成 26 年４月 10 日
・ 参加者：39 名（高齢者：10 名、若者：29 名）

■交通安全クッキング教室

・ 平成 24 年度より実施しており、平成 25 年度（9月 30 日開催）は交通安全母の会などを通じて募集したところ、12 名の参加者が集まった。対象を高齢者に限ったわけではなかったが、高齢者の参加が多かった。

（２）成果

・ 世代間交流ドライビングスクールの参加者に実施したアンケート調査結果によると、以下のような肯定的な感想が多数寄せられており、本取組の有意性を実感している。

（参加者から寄せられた感想）

●自動車運転の危険性のほか、車間距離を取ったり、シートベルトを着用することの重要性を改めて実感した。

●高齢者と一緒に教習を受ける機会は貴重であり、高齢者を見かけたら、より注意して運転しようと思った。

●講習中の待ち時間には、高齢者と話しをすることができて楽しかった。

●自分と年齢の違う方の運転を見て参考になった（安全確認の必要性を改めて実感等）。

・なお、市内の交通事故件数の推移は以下のとおりである。

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
交通事故件数	121 件	123 件	112 件
うち、高齢者が関係した交通事故件数	27 件	20 件	25 件

3．取組における課題・留意点と工夫点

（1）課題・留意点

・世代間交流ドライビングスクールの実施にあたっては、地元自動車学校の全面的な協力のもと、実施することができた。当日は、自動車学校の教官ほぼ全員がボランティアで参加してもらい、自動車学校を借り切って実施した。

・こうしたドライビングスクールの実現にあたっては自動車学校など地域の協力が必要不可欠であるが、その負担も大きい。

（2）取組における工夫点

・「世代間交流ドライビングスクール」及び「交通安全クッキング教室」においても、市だけでは実現できない取組であり、地域ぐるみで関係者をいかに巻き込んでいくかが成否のポイントとなる、

（3）今後の課題・展望

・ドライビングスクールやクッキング教室といった講習会に参加しない人に対しどのように交通安全意識を普及啓発するかという点について苦労している。

・「“魔法の一手”はなく、地道に取り組むしかない」との認識のもと、イベント参加者を通じて、「講習会ではこんな話を出たよ」「反射材ってとても有効なんだよ」といった話を口コミで広めていくなど、草の根的な取組が必要である。

４．取組の状況

【世代間ドライビングスクールの様子】

【交通安全クッキング教室の様子】

【交通安全クッキング教室の料理例】

市町村人口 （平成 27 年 1 月 1 日）	交通事故死者数		
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
33,681 人	２人	３人	１人
	うち高齢者数 １人	うち高齢者数 １人	うち高齢者数 ０人

【本件問い合わせ先】
富山県滑川市
生活環境課
0764-75-2111

事業分類	1. 教室・講習

【事例 3】世代間交流による交通安全教室（山形県山辺町）

参加型・体験型の世代間交流を通じ、交通安全意識の啓発活動を実施

1. 取組内容

（1）取組の背景と目的

・ 山形県山辺町は山間に位置し、山道が多く、高齢化も進んでいる。車社会であるために歩く機会が少なく、歩行者の安全確保策も課題になっていた。
・ このような地理的環境の中で、交通安全に対する高齢者の意識啓発（歩行中に事故被害者となるリスクの軽減）や、高齢ドライバーに対する意識啓発（事故加害者となるリスクの軽減）、高齢の自転車運転者に対する意識啓発（安全な乗り方）、高齢者の交通安全に対する地域住民の意識啓発（高齢者の交通安全への配慮）等を目的として、本事業を実施している。
・ また、子供に対しては、飛び出し防止や「ストップのお約束（横断歩道通行時には、まず止まって手を挙げ、左右の安全を確認した後、手を下げて渡ること）」を習得してもらうことを企図している。
・ 三世代が一緒になる機会が減っている中で、世代間交流を通じて、交通安全についてのお互いの認識を高め合うことも目的としている。
・ 本事業は、東北ブロック・山形県交通安全母の会連合会所属の会員事業として、数十年以上続いている事業である。

（2）実施内容

・地区運動会や小学校の運動会など、他の催しの機会を利用して、競技種目の一つとして「世代間交流教室」を実施している。
・平成 26 年の場合、小学校の運動会のメニューの中で、三世代が参加する「交通安全○×クイズ」を催行し、交通安全に関するルールを確認・学習した。因みに、2 年前はラリー大会、昨年はゲーム大会を通じた「世代間交流教室」であった。
・駐在所から参加する警察官がクイズの解説を行い、高齢者から子供まで、交通安全ルールについての理解を深めた。
・参加賞として、交通安全ルールが印刷されたトイレットペーパーが配られた。また、小学生には交通標識の消しゴム、大人にはリストバンドも配られた。

（3）連携先機関

・ 交通安全母の会、交通安全推進委員、高齢者交通指導員、交通安全協会、交通安全専門指導員、警察による協力事業である。
・ 中心的役割を担うのは、交通安全母の会、交通安全専門指導員、警察官の三者である。三者間の役割分担は以下のとおり。

連携先機関名	役割分担
交通安全母の会	日程調整や当日の段取り、問題作成、賞品準備を担当
交通安全専門指導員	学校と地区との連絡調整
警察	講師を担当

（4）事業体制

当該事業予算	約 26 千円 （うち 15 千円は、県から「交通安全母の会」への補助。町の支出はない。
本事業担当職員数	1 人

2．取組の成果・効果

（1）実績（平成 26 年度）

・世代間交流教室は、9 月 6 日に町立大寺小学校グラウンドにて、交通安全母の会主催の下で実施。参加者数は 166 名。

（2）成果

・ 交通安全に対する意識の高まりが見られ、交通事故件数も減少傾向にある。町内の交通事故件数の推移は以下のとおり。

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
交通事故件数	65	69	62
うち高齢者が関係した交通事故件数	30	31	28

・ 改めて交通ルールを再確認する機会となった。例えば、高齢世代では、横断歩道を渡る際には手を挙げるものと習ってきたが、手を挙げても車が停止してくれるとは限らないので、現代の子供の世代ではそのような認識はない等、世代間での交通安全に対する行動の差異、認識の差異を確認し合うことができた。
・ また、信号が青になっても左右確認してから渡るなど、日ごろなんとなくやっていることをもう一度確認することができた。

3．取組における課題・留意点と工夫点

（1）課題・留意点

・ 異なる世代が一堂に集まることのできる機会が少なくなっていること
・ 高齢者への周知や家族の協力が無いと実施できないこと
・ 適切な教材がないこと

（2）取組における工夫点

・ 交通安全母の会や交通安全専門指導員は、公民館で地区住民対象の事業を把握したり、小学校へ電話をして行事予定を尋ね、「世代間交流教室」を実施可能な日時の確保に努めている。

（3）今後の課題・展望

・ 今後は、出身町民が町に帰って来る帰省時や盆踊り大会等の機会を捉え、本事業を展開

していくことを考えている。

・ 地区民運動会や小学校の運動会（両者が合同で行われることもある）の機会を通じ、交通ルールの認識確認を行っていきたい。

4．取組の状況

【世代間交流教室の様子】

【参加賞】

出典）山辺町提供資料

市町村人口（平成 26 年 1 月 31 日）	交通事故死者数		
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
15,030 人	0人	0人	0人
	うち高齢者数 0人	うち高齢者数 0人	うち高齢者数 0人

【本件問い合わせ先】
山形県山辺町
住民税務課生活環境係
023-667-1109